

【対談】「Jリーグの未来予想図」

稲垣 弘則（協議会代表理事／西村あさひ法律事務所・外国法共同事業 弁護士 パートナー）

野々村 芳和（協議会評議員/公益社団法人日本プロサッカーリーグ チェアマン）

稲垣 シーズン移行のお話について、これからのJリーグの10年、30年の構想をお話しいただけないでしょうか。

野々村 Jリーグは、開幕してから今年で30年がたちました。その30年間で、国内を中心に、文化的にも競技的にも着実に成長してきたとは思いますが、一方で世界との差が相当広がっているというのも事実です。では、ここからの30年は、どういう世界をJリーグの中につくっていかうかとサッカー関係者で議論をしてきて、やはり世界にしっかり出て行って、世界と戦えるようにならないと、そのためにはシーズンを変える決断をしないとけないというのが、ここまでの流れです。

30年前、世界で戦うと本気で思っていた選手は本当に少なかったと思います。今は、ほとんどの選手が世界で戦って、ワールドカップで世界一になるんだと本気で思っています。本気で世界を目指す子供たちも圧倒的に増えている中で、我々フロントサイドがその本気のマインドを持っていたかどうか。自分への反省も含めて、そのマインドを変えるという意味でも、地図を変えて、世界と勝負するようにしたほうがいいだろうということです。

稲垣 世界と勝負するに当たって、これから取り組まれていくことがあると思いますが、これが課題だとお考えのところをお聞かせください。

野々村 2つあります。選手のパフォーマンスのレベルをどう上げるかはすごく大事で、日本の気候環境と今までのシーズンだと、6月、7月、8月、9月のパフォーマンスはものすごく下がってしまいます。本来、スポーツ選手は、少し休んでシーズンが始まり、半年ぐらいいいパフォーマンスになります。山なりにパフォーマンスが上がって行って、最後は疲れて落ちていくのが通常です。ところが、日本の場合は全く逆になってしまっています。これは、もっと高いレベルで戦える選手をつくるのとは、逆行した状態になってしまっています。気候変動の問題もありますが、そこを変えようということです。

もう1つは、世界の大きなクラブに負けないようなクラブが出てきてほしいのですが、移籍金の収入をどれだけ獲得できているのかが全く違っています。移籍金を獲得するためにはいろいろな手を打たなければいけないのですが、獲得する責任者であるGMも世界で戦えるように、世界のマーケットの中で勝負できるような環境をつくらなくてはいけない。1年間で動いている移籍金の金額というのは世界で1兆3000億円ぐらいあります。それがJリーグはどうなのかというと、去年1年間でJリーグが世界から獲得できた移籍金は20億円弱ぐらいしかありません。では日本の選手の価値がないのかというと、決してそうではなくて、そのマーケットで勝負できる人材がまだまだ日本にはいないのと、そこで勝負しようというマインドが僕らにまだ足りていなかったのがこの30年間の反省です。これ

から人口も減っていく中で、どうやってもっと世界の中でいいポジションを取れるリーグになるかと考えたときに、1兆3000億円の何%を取れるのかを真剣にやっていく必要があって、そのためにもシーズンは動かしながらやっていかなきゃいけない時期に来たんだということだと思います。

稲垣 世界のルールでは、Jリーグの選手が海外に行ったとき、移籍金がリーグだけじゃなくて草の根のところまでしっかりと還元するシステムができているのに、0円で移籍する選手がいたところをもったいないですね。

野々村 0円は本当にもったいないことで、たまたま、僕が札幌の社長をしていたとき、1年間だけ所属したブラジル人選手がロシアかどこかに60億円ぐらいで移籍したことがありました。1年間所属しただけで、60億円のうち3000万円ぐらいが札幌に入るわけですね。だから、みんなで育てていこうという環境は、草の根にもお金が回っていくように、ビジネスとしてトップクラブが成功して、育成型のクラブにも、また育成を頑張っていこうというマインドになるようなお金の流れができるようになっていくことが、世界との競争に勝てることにつながっていくと思います。

稲垣 移籍金を通じた一つのエコシステムづくりだと思います。そういったものもぜひ実現していけるように、この協議会としてサポート、ルールづくりもあると思います。

野々村 やはり世界の中で回っているスポーツを、どう日本を通してエコシステムを回していくかみたいな発想にならないと、もう遅れていくだけなのかなと思います。ぜひいろいろ教えていただけると助かります。

稲垣 Jリーグさんとはパートナーシップを結ばせていただいたところですので、今後とも協議会と連携していただきたいと思います。